

# 駅十商業施設アワード

## 東急設計担当者に聞く

②

相鉄グループが開発した「星天qiaay（ほしくれい）」は、相模鉄道本線の星川駅から天王町駅間の高架下空間を活用した開発で、全長約1.4km、敷地面積約2万5000㎡におよぶ。星川駅から天王町駅へ向

方を「遊ぶまち」であり、人にフォーカスして体験や経験ができる点に重きを置いた。Eゾーンは高架下の商業エリアと6階建て賃貸マンションが隣接する。ここは住まい×商業という異なる価値観が混ざり合い、魅力的な交流が生み出されることを目指した。

具体的には、Eゾーンは、帷子川に近接する立地特性を活かし、開放性の高い広場を想定したエリアで

利用可能なウッドデッキを備えた開放的な広場へ辿り着く。帷子川に隣接する立地性を最大限に活かし、昼間は回遊性を楽しめる空間、夜間は川の流れを感じつつ、飲食を楽しむことができる

がらも、異なる賑わいを創出できたと思う。——苦労した点は、Eゾーンは商業・賃貸マンションが一体的に見えながら、法的には2つの敷地に分かれている。このエリアは接道条件や法規制が厳しく、当初は建築計画が難しいのではないかとも思われ

ノウハウを有する。高架下と建物、その周辺とのバランスを土木躯体との関係性を理解しながら進めることがカギだ。——グッドデザイン賞受賞のポイント。藤田 星天qiaay開業前、このエリアは長きにわたって地上に鉄道が走り、踏切によって南北

### 星天qiaay 2025グッドデザイン賞

# 相鉄線高架下を多様な地域貢献創出の場に

## Eゾーンでは賑わいと拠り所を意識

部のEゾーンをはじめ、星川駅部のBゾーンにおける設計・監理や3つのゾーンの開発許可申請を行うなど建築・土木・都市開発に幅広く関わった。設計するにあたってのポイント

あった。また、駅改札から至近という優れたアクセシビリティを有しており、老若男女問わず多くの方が利用できる、高いポテンシャルを感じられる居心地の良さを追求した。さらに奥へ進むと、イベン

エや住居と生活エリアに移り変わり、やがて芝生広場が顔を出す。後に商業施設も登場し、気が付けばあつという間に星川駅に辿り着く。全長1.4kmと聞くと距離があるように感じるが、実際に歩いてみると異なる特徴や風景で距離を感じさせない。Eゾーンは他のエリアと一体性を持たせな

る土地であった。しかし、当社が培ってきた開発基盤や土木、高架下案件のノウハウを活かし、行政協議を重ねた結果、高架下商業エリアと賃貸マンションエリアを両立させる計画が実現した。——当社には「中目黒高架下」や「M、av北綾瀬Lieta」など多くの鉄道高架下商業設計の実績と

の関係性が分断されていた関係だった。しかし、22年から着手された相模鉄道本線星川・天王町駅間連続立体交差事業によって、南北の街は一体的な関係となった。さらに、鉄道を高架したことによって生まれた余白を、地域の人たちがとっての拠り所としたいという想いが開発の第一義にあっ

(株)東急設計コンサルタント  
建築設計本部 第2設計室  
**藤田 皓也 氏**



藤田 星天qiaayのコンセプトが「『変化を樂しむ人』が生きる 生き



た。設計事務所として、「生きる人が、活きるまちを。」という想いのもと、地域の暮らしに寄り添い、日常を豊かにすることを目指し、重ねられてきた取り組み。この積み重ねが、駅間高架下を単なる通路ではなく、人の活動や営みを感じられる、訪れたくなる居場所へと変えたのだと思う。これらが評価されたもの

と考えている。相鉄グループはこうした機能を盛り込み、様々なイベントを開催できる場をイメージしていたと考える。竣工したら終わりではなく、むしろ地域の拠点としてスタートし始めたと言えるのではないかと。——受賞の感想を。藤田 賞を取ると社会的認知度が広がる。星天qiaayが地域の域を超

え、広く知れ渡る機会を得ることができたと思うと大変嬉しく思う。このプロジェクトを通じて、素敵な考え・想いを持つ相鉄アーバンクリエイティブをはじめ、実現すべく尽力された関係者の皆様の努力・技術を糧に、次の設計へと紡いでいきたい。(聞き手・特別編集委員 松本顕介)



店舗・植栽に囲まれたストリート。昼は回遊性、夜は飲食を楽しめるゾーンとなる